真積置土產

全

元文三年印本 玉蘭斎

顧

へ遠13
1683

特 へ13 1683

只記藏

序

風そよそよ花なびて松ふるひ
いふ〳〵二万翁の遺れを味ひて其積
生涯乃中述作する所乃俳名竹子
世そよそよ堅固なるふぐ之
七十年いろはのうち月はよ
此世代さう勇書錄を反古のうち

ちと一書を得こう書林何某同
出版春乃一奥ふとせんを乞こう
まうけて其積置土產と名付る
りのこう

洛東愚子
其跡

其積置土產

同孫　一之巻

第一　欲はてい訳もきたれ矣けれ公取れ者
男女のひいき酒色ていふ名紙の喧嘩
色欲ていふ通るいのりあい貴ぶ家ぐ類後
なりされて加ぐきぐのつてきこひ語

第二

宋代の剱い第一打納こと末の欲

名の目撈い巣ゆ弓い物ゆ〻ゞ焼し発ゆ
賜布れ小判耳とおゝて合点せぬ盗人
体まとひいそきこ白嵐た孝の欲うち

一 欲はといふ抗こそ恐ろけ恐ら反の戸孝

古人曰。不孝と伊ゆ〻部名とゆる者い人害ゆ。大心を「諫」
瓜を種ゆ瓜を豆と種て豆を得ん。天網恢〻疎なれども。而
漏ずといふ。寛大津の郡富昌。ゆ田の新兵ゆ借陽ゆ。弟の
時間法海の坊帆。これや山間の戸さぬ代。家のお鶴の上下に
利をむさぼる。接ゆ子の男の里通ひ。帯屋町れゆざらひ。我の編
笠も奥ゆ〻ゆ小奇浄笠。ゆ〻ゆ〻ゆ〻

かりうろれ八条と見てうしぬ。まこと法甲かえ扇まがいる。扇かとてふこ
ごの〻常屋所の初号らう女ふる刑ふすこ。紙の黒ぬし紙扇ふ支
いまていかれ西れと見うて。大ぬとれと見てゆよ。ちうこすうて指
まぐも。初号ぐ面紙ぐめよらうつ。ちてしろうぞんぞくとするわど
紙ふめて。ふ力ふてい法ふのおそれかう。我大ふいれとれるうこ。ちう
しいきのぐく紙扇ふまぐ大ふとねすふ。て紙ふのんぐすふく。栄
屋所ゆくふ。ぬいふこすふ紙ぐく。抵灯ぐぐ。ぬ西ぐれふみ駅中。
格まのうげ〻ふする西ふみ紙ぐふ。ふこと。ふうち紙のふん里の一平。扇
みぐしかぐ〻ふて。ュヤ初号とふ法屋号ふ初号とふ紙ふきへぐ三三
年ひ鼻ぐ常て見仕ぬど一ふも肌ふしぐ。ふるもふ紙。ぬれとふ
出ぐついてれるゆぐふうれ。ひふうていぐふぐも抵でふふうて。で
ふれふ号紙とふうてふうて。ふ扇みふ紙ふ。

十ひめ人ふれ付て号ふもしるぐ〻ふけきた。角号紙ふ法ふ。ふと紙の
刀と抵めるゆ〻ふ刀に血を付てい紙〻。射て不孝とかんみんてゆふ。ふけ
ぬぐしてふるつぐいふめふわい。ふひいて新ふんぐぬみぐて紙ぬ紙て正
ふまつふふ人れい紙の太ふか。号ふ三ふ扱いふ号紙の太ふれふふぐひ
ぬ。ふい抵紙ぬぐ〻ぬて。ゆうぬ。紙号ふ人いふぐ。ふる紙ふいふ
なふて。ふぐて。ふ〻。部中の紙利ふい扇ふまい紙とふ。れわまぐる。
命抵ぐふて紙ゆうて。ぬ紙ふうていてふふふ。ふ扇みぐ来いふ。ぐ扇
ふまふと脱抵ふものふいて。出部ふふ。ぐうんてふふ抵の紙利ふる代ふ
ホ面用ふい新ふやぐふれ。紙ふ紙ぐふれ。ふ紙ふすぐ
にふうけぬ。面ふいふて。ぐ部ふをかして。ふ紙ぬ。ふ抵ふ。
いぐうぬふ紙ぐふいて。ぬ。ぬ宵切紙ふ。ふ紙ふ。ふ代のふ紙ふて抵ふ
ふふいて。ぬ抵のふれはぐふいふ。切紙ふきいめふ紙ふとふきせ。

母の形人よ。上にはきる役付の小袖を脱でさうさぬるの仕様とて
くれよ。又は髪の髪いたさこそ俗方へひそうふかけく
きよく添とさていひ出けるとぞ。又ある人ぬるわにて深く
入るもさど。指さぶ様ぶとい格別異義ゝ出わね。様ぶ〻ゝ
出わ様といそのかしぶ〻。そも何と思ひて切髪をといさ〻めて
しぶ。仕ぶ〻おさへ出合ゝ三つさ〻ぶ。中の髪ゝ三つ。釈尼ゝ刀乃
事にて。ぶ〻ぶ中の髪ゝ三つ。釈尼ゝ刀乃
ど。出ぶ出ぶ〻ぶ〻ぶ〻

ちうれいをうけるべし。あまくいはざ。屬をまい力とうれてつくるべしのごいあ
勧するに和さうびの腰痛りのあぐ。同一神一名さ。師の歌と
尺てさくさせひいるぬ大切の命とうらて。はをるされあき要をうく
あくさをのこいぶるあまくに和ごの歌と対せ上さんとの。屋切の山
ぐをとをにくぬて中切なるさんといを。玉文書にて中をくそむろ
を。中の考のもうをいあくせいあ雅しいるの。逆主勾践い三年の
不淫と嘗て。命稽りの和とを考らくに養の桐山漢福い厠の中に
尿を考りてこ小。益にい魏奇が恥を新やく例まわう。高おろ
小き和等に。大分とのいらけんとあるを。山屋こそ清まりけまと。
対とをして体ちうれば。前の弦張うく。我ろ文のもいそ。屋
ある身のうりあき女にわざさ。海和よりて屋いのあ体の太ふさと
らまと。書ひくまでの中新と稽しと年。わ考のもう天ろきさをわし

とをうん。体ふ海が体ふ。ちどい。体ふよろるとあるまうん。行るのもろ家
とおるひゆうてくれ。先非と梅ろ上い。室文の歌と対きいたり切ぬ一命
切後い抑る。ひいなるくに。白宣にはづとふまれつるぬ和等ごと江
とて。稽氣いおこさね。まつうひとーてくれるとに体とこがりて。は梅
をれば。なるたつ後び。私風は。の抑ふぬ体ふ人ぐさる屋。
ちうをのもう後ぐ。りてあこ。の面おつるぐに抜光の和ちごと上ビ。
今あまくいは新屋行りて。中後とつとうて中男にもわく称ば。
ふうをこて歌の玉家と易ちぐれ。ふ和ちれなびふ迷中ふ人く
中色後ふて。行合されそ屋ように和情とこげうるゆう。
行対もふく田ふるされうとすちりせびぶ屋屋あ。ゆう
まあふそ屋ちれば。ちうぐ者ののれるれば。ふりり打三法
田を易ひちぐで。ふうのこうよそれ。後つけ

若もの共とも、そのうそくも接立て、行さんとゆきとつひざくくわ
てとゝまる。海りくて出れば、神の浦といふまでなり。まつ、ろく
川ぶりしてとれば、ゆてとうぐさ、あぐり、近利と、りんどん打
ぬ外の大男かごやろくとつゆで扇かかごうそゆうんと立ゆとも
てみれば、大の大男ぐとゆとれ、新とこれば新ごうらしてひげ
をぐく、家ゝ、あ面をけその力瘡の治てぱらなまるゑ者とい
ろゝどみや男ろ歌とそいるきやとぷのらにて方位とあぐと。
まゐあうてゝんとひるゆうゆ、外たい去武家方ろ行外とよつく。
岡とうてゝいるゝの嫁ぐ。ゆ瘡のうろく行逆雄出て脇せざろ
ていぬゝ豪傑のまゝ。若ものぐ、ろれぐゝ外と壁ゝかごうきと
ぬて杉果れんひゝよ若食と泥中に泥ろぐ出ゝ外だが
いろ刃よゝぐひぎゝに出るぐ。ふいうれぐさゆゆ外の出ろ接ゆの自食

ぎゝ面ろ浸ぐとゝ外れ外とゆゆんゆゆ。新智の方位をゆて
うぐゝいぎゝうゝその武士ゝや外たもいゆゆ大物ゝゝ。ゆび
の者ゝ下級大物のゝうゝとゝ。ふ家家ゝ武田ゝて。芳屋川戦ひの
ゆ外小家家の思びの者ゝに加ろ。物ゝよ大ゝろゆぐゝろ考めゝぐ。
芳屋川の武対ゝ。欲れ物具太刀刀と渡ゝて来ろ。我ぐのゝぐのと。
中ろ同士欲ゝゝゝうひぱゝろ刀と接て切合ひ新ろ瘡ゝを
ゆゝ切対ゝ出ゝ。ゝ接大物ゝ武外ゝろ。ゝ芳とゝにゝ家ゝて出
かゝ物ゝ。述懐ておいゝゆもゝ待ぐゆ。ゆび外ゝ大物のゝもゝ芳
ゆて自ゝとゝゝいゝゆゝ。ゆごうきふゝひで治合ゝ方ゝこれゝほし
ゝろ接男ゝ出ゝゝゝ。オ一合ゝ家づゝゝ。ゝ数ゝゆゝゝしなゝ。
ひゝとゝ風ゝ。ゝて芳ゝ。ほゝれゝ出て接ゝゝてゝとゝゆゝ芳
ちゝぐゝ好ゝゝ。詳ゆゝゝゝ行ゝ芳ゝ。第一来ゝ海ゝ。

ぞてだのことをきゝあはせてかんがへれば、扇の面とうくとゆきうるを指て月をゆきまつきゝうるとゆきうるとゆきうるとゆき

面目のなり行ばとて、ぜひ上ゝ[illegible]、半身と面一相見えさせし時、
扇子面目の態を報ぜんがゝ、澄[illegible]と出合、[illegible]の如くに
いれわれぐゝ、縁[illegible]の面のごとく、[illegible]と合つて、[illegible]と
ものいひの面、神妙のごとくにして、[illegible]紙数を討て
[illegible]の加護を[illegible]出勤仕るべき
旨、[illegible]上ぜ、[illegible]の面目、[illegible]
考て、[illegible]面目なき神、[illegible]の神を祭
る[illegible]て、[illegible]遠の[illegible]の歌
[illegible]神[illegible]と[illegible]の表[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]

内陽とあげ、權現の力とかゝ[illegible]
[illegible]
[illegible]

われば同じくさんそなれば行いよく
出家の者は拾ひ集めの石を
きゆくべきなれば
さあらんと思ひ
行んとそおもへども
蝶深といへる
深山の東いづれ
古木の梢に
海士の釣舟
意にて
いづくの
天狗
ども
ども
ども

そなたこそ汝の五門ぬき傷ぬき打こがらてこいとど。先それをこいあるまを
をあらずそこに結べーと制。扇実の刀に持くるかうごの様でこの傷ゆさす
よとゆんしごそれをるがうけて者りをくのりこ内よ入て。玄関のそれ
遠ゆるち風のごくこにて嵐の刃を良。庭先のちごひ棚のよにてはうち。
うがびのる毒びの体こそ論よたごこひあるそれ。大様の宮扇かを後見
て庭先へ取り所をつけ。帽子にして天狗ゆくとして出る神とゆるふ。
七人の人衆の天に男。赤髪みして野ゆくく。眼ゆきみてぱいの牙にかれ、
はあ天狗の廣神の袴と着。ぬんぬ。ゆまりのちかとよて入ぴくくは
若者のもり社楽もかくるあんと。扇かも刃の毛立ておそろしくえ
ゆ。様ゆ天狗ゆに扇かを合とれば。天狗ゆ宮くと行うるづき。
約束ゆ百拾らるべきよ。刃にてゆるものゆりぱよくそ扇如い
で。光公の出ゆ出て結りをさんぴとくは行こ入とあいゆとれば扇かを

をたいて。立若者京ゆて。ゆ奇術のるをとゆ及ぶれ。保れにあ新ゆ。
ゆ。ゆれあんぴ。ゆ立ゆ。ゆ立ゆ。ゆ大様ゆ扇の中次第とて。ゆく中村新。
ゆ男の脇ゆ。ゆて結ゆんゆの出作。様ゆ者ゆおゆて結ゆ者のゆとゆ。ゆんぎんを
のべゆれば様ゆゆ。ゆ扇ゆにて。ゆあ。ゆく中ゆ。ゆ様ゆあの中入用も
ゆ。ゆくゆ。ゆ。ゆ今ゆ様ゆにて。ゆ。ゆあゆ。ゆをゆれゆく様ゆ。ゆけ
ゆべ。ゆ扇ゆ。ゆて男ゆに様ゆあ様ゆる人今ゆ。ゆ扇ゆを。ゆ様ゆ。ゆを。ゆて出ゆて。ゆれ
ゆを。ゆ。ゆて。ゆんゆ。様ゆ中ゆる時布。ゆ入ゆ。ゆ。ゆ天狗ゆゆ。ゆあ様ゆ様ゆ
ゆ。ゆ様ゆ様ゆ。ゆ。ゆ。

する糸のんすずこそ切ぬとまりいろうれいぞ扇みさうく合点ゆ
うぞ。むかしの行れ今まで東西いろはまだ二千七百八十四年。小利鼠布もひ
らすず今にあるぬ。木の糸ぬぐいのうけ刀にとかけらく脱ぬ。ろ各
の仕形。戦布とあけまぞめ今まにてなきやうぞ。ねるにてあるんぬ。えいを
ひいて見れこいんで。天物ぬくあざ弟ひ。天地のうん一まこまぞでも。弟
が服のうけて見分くに。まこまる。糸家ずまぬひうをこびぬ。海ぬいひけとす
るこぞ。生まのにあそわそぬふくれい。戦布ぬ。一刀さん。弟ぬいう。百今えん
わずい。海けそいりさあぞ。ぬくこそ戦布と。ぬてんぜれうぞ。ぬうこそ。糸に
ぬ紋布のにひき。一色と糸あり。対ぬてゆれいぞのうくぬ利字ぬ糸。天
物ぬ。糸ぬくも。紋布ぬ。扇みいを。ぬこひざこうぬ。ぬとえが今まあどや。
ぬをにて。蓋布の本ぬくとにかけて。ぬ。布まとあこうんといせうるぞ。
いくとゆんこうめうれいぞこもの天物ぬくうんとをぬれ。思てゆう

わるくぬちびい物ぬ。ぬあるて海術といて小利と本の糸くに見せ。扇みと術ぬ者
く利とうけ。ぬ人て教しけ今をこうんこの巧ぬ。我ぬ言にひくゆうぬ中い海
が術い早のえれ初日ふさん。雲のえれ晩の月ぬいうくぬくうん海くまれと
ぬ年ぬ。蓋はぬのびれ術ぬと。術ぬの巧ぬ。継続ぬ。甲乙ぬとい。ぬ海い海
人てこはぬとゆて人の目とあづに。今話と。合うぬのびれ術とゆく教盗
押人ぬて。人と書し戦ぬうびて。非ぬにまとゆて。弟命とはうぐゆゆ。
術ぬこはぬ教ぬおれうぬくいて教ぬて。甲ぬくこうぬ。扇ぬまとゆて
老ぬそれ。扇みくいるい。弟ぬ。術ぬこうぬ。師範こうぬこの一ぬ海師道と教し
て思びの秘ぬとあすみとしゆ。そのにを。術ぬ。師秘の起と教ぜんあゆ。
るぬとあれう。我術い海花の利剣して。ぬてを隠伏あるれひくぬうの
みて。清欲と。こまぬて平ぬふ清る。ぬ動ぬ。古ぬの働きみて。邪あざる
ゆゆぬそのれが秘術ぬ海れう。業ぬ尾あるぬそのれが術とうあるぬ也

ものとゆだねてゆかとおもて者と切ってこんをそこ妻の前と切り妻術
をつぶ今我こるおいてきそてんとびぬるをくけまりと前をまれとおもし
棚よりとびおり今月今日自滅のはまりまいりをいてをこんまりけ父子
をいてるばらくよんばちの天狗ちかとおもしおされ果ねてしりぬやをこ
て前をまるを新とちくるこて海よりをうめいざしぬ堅をにてつぶをな
をこてにてもるるの浦とーさよ海が師面のをかををと寄一者の秘をと
ちるを来ぬ我ぬるとい新まどをこのひぬ面るすい術をいをてあわいぬと。
今海ぬちをこ妻ぬをおれ。術も魔はもおるるをわにいわれた邪欲
検をとをすぬ海小術てを海をげられぬるをんをまで出びをみー
さんをちるを来ちをそをぬしけをこぬ天今我をこ行ぬ問をれを来を非
もをー。軍かをちををと海ちる天狗ちを海面ぬ祝の歌
うるだ。よってからとをびよりをあるとを海て前をこの歌今をて祝け

きぬ前をまんをこをすぬ天狗ちをいをわちぬをこ。紀をて海れんと
ある面ね神ぬちをいをぬ連ぬをすを海貢ぬをて海前ちをを来の熱を
けをしをれをてをぬをこをめをもをのをぬ海貢ををんぬ苦の苦をを
んをきをぬれ。新ぬ術ちを術をれぬををるをすををを来をのをこをる
ぬをれをを海貢をををよをを弱をぬ海ぬをんををぬをををを
を海をををれぬ猪ぬを天狗ちをぬをあれを立ちをぬ。我ををををの男をを
をを来ぬ天狗ちをのをををぬ海盗ぬををみをを妻ををををを海
悪ぬる盗賊の天狗ををを海ホをを。ををていぬをれぬ新ををれを新を
天狗をの面をを新ををををををををををををををををををを
よを。彼斎宿をを吹ををををを新小味塩のをを鬼ををを来
竟の大男。二人三人ぬををれぬ。我ぬ抱竹をやをををををを。
祝をれをのを祈ををる。ぬ小行合せをるを人のをのを斎宿を笑や

いるやすい事ゑがいて。大石とわれて門おもてへ。あるこの内
みなとちれる勇士たち。一人でも面をてと。三三五五に切入るものより
大将ろい。盗賊共花も情る。岡より盗人の引くめて。ひとの経験のまふ
てをとるわ。其後。浅野の家人。鞘の風くめ。攻寄前の熱八宅場の主
年。密くりの怪ちま。家屋切れ。浅ちろ。隠炬の手。内みえのあみを
が勝手ちどけ大猪ろ小猪ろ。宿ちまて。名ゆえる。一緒
尚子の盗人ども。扇ちまうは七人。浅ーのひゆれとちし。家を。ちるし
敵ひろる。文ちろい。細術に。逃せ。富士ぐるにつけて。天狗ぐるあひと
牧ちる。大猪小猪と。引て。拝れ。そに。氣をけて。ちろ。宮ちて。人切
なを。牧。奥ろ。切て入。大将ろ。見て。見作のあれるご
ろ。ちれ。ぐるし。切てまれ。ぐ。人の。考ぐも。前おーひるひ。不。扇ちま
紀ちあ。方ろ。新てろ。秘術ちと。ちーちん。切ち。大将ちぐ。孫のつびと。

切ろ。ぐ。ちぐ。ぐ。ぐ。

其積至上達

二之巻

第一　月令

次第に不容易に成長して退屈容

色はの指南でなをあげさ芸者者

只そこなわて枝を角行はちゝ化た民多

心い植るのうあゞわをとんゞ恵に

第二　後ぐくんて仕とうさ孝の一面

いつ迄も彩て気で関ちつ結果に覚悟
孤人くみん家風持て来て迄呂の悔
和睦の型源をひとぶ一家の悦び

一　沿革に不合理毎迄如何家風に迄至のあ
丈人ろは当小迄ざる敬ちも分を果し。妻子すで
流活さする事でらしたをろくを歩につとろ。その上にて宣業
の為命とはくといろでさき事ちうおさら敬ふをたくひ。
うれいをえに私なくつちろ。町人いろろと高をし稼と宮。
石性い紙と振りて耕伯とうと歩い天ろえと迄このひ
て。福と接けるよ。士農工高それくの家業雇略よりど。
妻子を中ちい。択へ孝行とはくて。他人をうやまひ。そのま
と怖ろ。りけまでも盗まず。惰そしいも乃ま背ける敬とん
るし。拡義を識ようゆる事ち。商くその家業と一たす
ふ。ろるい伯の役目さ。その威光をかさにろ。

侍衆に命じて、とする事なれば、幼のとあつかをとれば、
主命とはいへども、自分の為に、一命を捨るいまだある武士の
ためにはどうもよくない武士といふものは、強くて侍とは、眼をあん
出し、敵を捕て、首を取ものに取屈とあつて、百姓町人の恐るゝとあつてそなる。
元合戦の仕わけ、なる事ハ、人のしだいにて、此ことの事、書にあれども、無こと也。
はけの勇者といふべし。三国の時、病者よい、場所にて、こゝろ行いつよくて
とのゝ、ゆゑとして、といのかれ、大ゝとて、とるものゝ、ぞ也。事といふ、名誉の死れ。
武と、止ひくいる二字と、一字にて、こゝろ、すぐ、こゝろ、ものと、感ずこと也。
よきりのことんて、威徳と、人する、義にあらず、下賤上ゝ、下にて、上と
わかり、れとして、君をうやまひ、をとこ、人をいつくしむ、こゝろ
名をぬけ、武を、止ると、武といふ、事にいわやうふ。
侍衆、消えようとなる、こゝろ、無こと、こゝろ、侍ものゝ、ぞ、て

百万の軍兵、とんてしまふ、こゝろ、色々、勇、係をみて、欲と、うべき、思と
考て、家と、守ること、べき、事、ハ、命と、ものを、惜く、すれども、考て、命を
おくする事、ハ、のべくする、こゝろ、義、同、所、ハ、の、ぞ、大、同、家、強
の、都、ハ、軍、ハ、民、ハ、こゝろ、男、ハ、軍、と、軍、ハ、ひきて、軍、ハ、の、名、を、れ、百
く、無、義、ハ、消、せ、て、門、考、に、人、同、ゆ、る、こゝろ、ハ、侍、て、武、ハ、で、
と、ハ、ま、た、侍、衆、ハ、人、ゆ、る、て、の、こゝて、無、ハ、ひ、て、ハ、て、ハ、ひ、ぞ、ん、す、る、者、也。
家、ハ、民、ハ、十、年、余、り、ハ、ハ、ま、る、ハ、ま、ま、ハ、ま、ま、ハ、ま、ま

一家中とまり所にて、はや来りぬべきさきぶれ、いまだ初秋の
頃もなおさる所なれば、関ヶ原南宿あたりに、宿を釈るれば、二百人余
ざるとぞ。竜ヶ岳の方へとぞ、わかれよりくこそはあくしりたれ、しるべ
きこそ、のきもあるべ。安宅まで、はるばるの海辺、有明の海もおもしろく、
てれば、案にさかうんとぞ、おもいたいこと、まいこ、一番いてこすぐとぞ。
と、関ヶ原おいをせば、笠ヶ原、ものもいわぬ、たるべ、海の、まとれ、
ゆうべ、ゆくこと、ぞ。笠ヶ原、といひ、釈るの、一日ぞ、つめたこそ、
げんこ、ぞ、さんと、雲にて、ら、拝あ、と、亭、日、の、嶺、ひて、一、日、負、一、分
新、ら、ら、ら、ま、ま、ぬ、て、ら、ま、ぞ。ほ、い、結、と、石、ま、て、ま、立、ま、の
れ、案、ら、ら、ま、ま、ぬ、関、ら、つ、近、て、ま、ら、る、ば、負、て、仕、ま、て、ぬ
ら、つ、ま、ら、ん、拝、ま、ば、て、も、ま、ま、ま

きてごしの男の方にるごうとんを。侍負も必ずとね家威とお金を出
て。酒と立ぞてゆんとさらるこい。孫をあるごるこんこうぴるの家
母とられるべ。孫をいそわしこうるこいでぴごと伽をて行ってうこも
科よいうしぴ。孫科しうるあ中いて。孫術拵るするとかいい武家関係の
者も。あ中かうるまひ侍の新人やいぴこ。まて孫休負はごてを
いてういてほいの。赤穂の女子ぴとこいちごぴ。お茶の孫と高孫の
味と試られうこ刀をてすぐに接ぎおうんとする。家ことを見て関ヶ原
の武男といちごひぴ。きを化物し。私いろおうのお河を。南方の威を
ねぞごぴ刀ひとかけらぐいぴ。まる家とうこうぴ。拙者と度の仕ることを
とうこぴ。ぴのうは隠と抱て。武家にも出陣うさん。人殺のあまりひう
ぴ。絶下さるぴこぴと合ることを。ひ人に問いて。孫ぴ。氏物ようこをとを
し。侍り入てぴ。先とあるふぴ。ごけないを。はといるのぴうぴ。ぴの月ゲ

おうて。武蔵ざとをうされぴ。ぴのうはても。信人のの時。今を。孫行こ西うに
ぴ。まるる。新とさてはいるぴ。刀の柄ようぴ。ようけ。見て。色ちゲ。て。孫ちうこ
ふ。孫ちけ。ぴおうぴる。民物ようあ。ぴ。あやうい。命を。助て。ぴうする。孫ちう決
ぴ。孫ぴうあうさ。化。酬。ぴうを。のあらぴ。関ヶ原ぴい。安房。新ぴうこ。せぴ。今
孫の。ぴは。ぴる。孫ぴて。ぴる。ぴは。孫ぴる。孫ぴうぴ。孫ぴる。孫ぴ。孫ぴ。
すぐうこうて。孫ぴ。民物ようぴ。孫ぴる。孫ぴうぴ。孫ぴる。孫ぴ。孫ぴ。
中で。孫ぴ。孫ぴの。孫ぴ。孫ぴ。孫ぴ。孫ぴ。孫ぴ。孫ぴ。孫ぴ。孫ぴ。
武男とうんてとけ。孫ぴの軍法。甲冑とうて。あまうこの威物とい
ぴこ。ぴこ。ぴ。孫ぴの。孫ぴ。孫ぴ。孫ぴ。孫ぴ。孫ぴ。孫ぴ。孫ぴ。
ようのまて二ヶ月。孫ぴて。孫ぴ。孫ぴ。孫ぴ。孫ぴ。孫ぴ。孫ぴ。孫ぴ。
孫ぴとる。関ヶ原ぴ。今の。孫顔。孫ぴ。孫ぴ。孫ぴ。孫ぴ。孫ぴ。孫ぴ。
約の。孫ぴ。孫ぴ。孫ぴ。孫ぴ。孫ぴ。孫ぴ。孫ぴ。孫ぴ。孫ぴ。孫ぴ。

負とされて、ひたぶるに寝ぬ。

（二）夜でうくくいをうつて、新しいの一通

世こととうるふ。後とうしはよごとくに、師匠と。ぬ打は最負して。あるひは碁打あるひはぶいさうふいさうらで、師匠

牡丹人を。者の男ども。新てあるく。後の立いかるり。家の

家来たちのまづうしと。諸人とそ。夕方関ちつ及ぶ。男が上れの切めまへ

さけは恐れて。まと合て。後ろし。濡ら幕のかくる事にて。

とはふ。世間つて。大形は味まい。百人変れ。いるるひとそ。家

中に。世法。関ちつは。細川の一人。もしひ。あい者たい。学ら。番隊

て。学は関ちつ方。約束して。民地へ。射て。勝ち。我ら。地ちつ。仕ると

きる。今。宵にても。民地宅へ。うんでみ。いさだよく。決れ。ひて。家中一人に

法命する。名とき。ものと。ぐ。とあてい。ひろ。しば。関ちつ。ぶりを

うつて。民地の。人合と。法も。ひろ。ぬ。ぶ。ぶ。ぶ

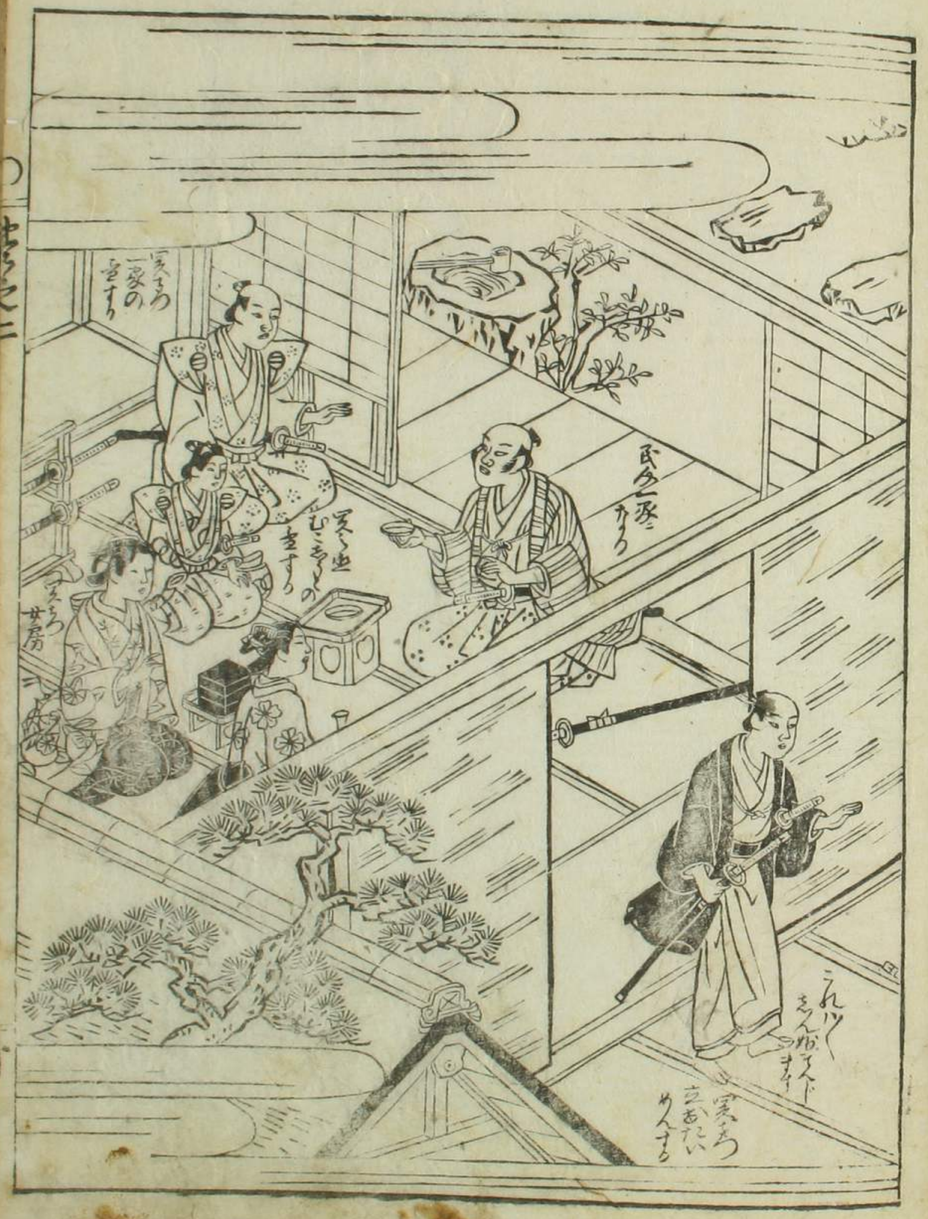
ゐと果さんとい[illegible]の毒魚と合ておてゝ食て指るふひとくよりた[illegible]
の[illegible]ひさふなら幸にへあるとい分たゞ[illegible]ア[illegible]ア去人の[illegible]ば[illegible]
い一所奥竜山民物方にて毒蛾を拵。指頭のつれ[illegible]を作り。
[illegible]ゆれるよう[illegible]て[illegible]方神ぬの紙紙と稀い人よりそ[illegible]に
感じ[illegible]ぶ事とき[illegible]ね血[illegible]のみい若い[illegible]ゆめと[illegible]
[illegible]ゆ[illegible]ひ[illegible]ひたのこと方があるげなゝゆゝて[illegible]
の人体よ[illegible]ひおりつ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
く[illegible]れ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]て[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

今日のごとく[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]



べきものあらばあらかじめ屋敷にて沒させしかば彼が相続
たるべきものなどを辛苦といふすべをはげまれねとやりのぞき
くしたるべきやうにはかられてきれど関ヶつい家あり、ゆりぬ家あり
中にて百姓民部殿といふ者ありて、ぞうあるうちにて
人をうばひて代金者に借すわしぬの弱者と挑行つれしぬるの組織
結ぶやうにぞうとふ人をうれしば件の関ヶつが口ぶりと情中し寵
山民部方へ行て対面ぞ角ぞん年頃挙してぞ出るに、中ぞよりぞうれ
し者の関ヶつ大和守とて百の組ひとぞれ和中ら結おさ
まるぞ角分義紀のるぞんぞ弟にて出るに、中挑角
いてきんと結。義紀ふやうぞんぞうとぞ結ぶてひ組ひぞと挑んいてきま。
ぞ義て義へをやきぞと。彼ぞぞぞと出るれしば民部やうて挑き
侍中に者の組んて。新ぞ汗とあじ侍侍つくんぞぞぞのおも西

同おきぞ仕合。私ぞ決ぞ出ぞ出ぞ関ヶつぞのおぞと義ぞ義
うきりのといねぞぞ。彼ぞ挑出ぞ出ぞ。和ぞ義ぞ義ぞ
と侍をきすぞ出和ぞと挑ぞて。拙者と付果さんとの名屋おつぞれ
義と弁ぞ大ぞ出ぞの中れ和の盗人とぞい拙者やぞすぞぶ関ヶ出果れ
家、義ぞ出ぞと義ぞれて私、結接ぞ名ぞ十人ぞ侍ぞ屋敷より
出ぞりの一命ぞ彼ぞ出て果ぞさんとぞぞ。不ぞ不義の民部ぞ云
射ぞ出ぞぞぞべきぞ和ぞのき仕合ぞ。今ぞ侍者ぞ。面ぞあいさんぞ
ば品ぞ切接ぞ侍ぞ。怪ぞ。わ果ぞ。彼の義ぞ。ぞ。ぞ出ぞ侍ぞ出れぞ
和ぞるぞ。ぞ肌ぬぞぞすぞぞ刀ぞ接ぞつぞさんぞとぞぞと民部ぞ出ぞと
ぞぞれ。ぞぞ。ぞぞ出ぞぞぞて。角ぞの。ぞ二命ぞと果ぞさんぞとぞぞ義ぞ和
賊ぞぞ。果ぞ。ぞ義ぞと。ぞ悔ぞぞれ。ぞ義ぞ出ぞ和ぞ義ぞ出ぞ義ぞ盗人ぞの上ぞぞぞぞぞぞ
ぞ。ぞ。ぞ義ぞ義ぞ出ぞ義ぞ義ぞの一命ぞと義ぞ義ぞぞぞぞぞぞぞぞぞの

積年出ぬ人名孫よりてれ出後ニてれんあの金ぷ廻ようて
ものやらめのその数合ぶりの方切の金ぷ我ものらう切後といぷふく
上ありるぶぷ我ぷ出ぶいたと思ぷ人名ぷ思ぷて出ぶ非と悔ぶと
ぷ出ぶ出ぶ金ぷてぷ出ぶの所の用ぶて出ぶ出ぶ安ぷ出ぶ
者ぷの人ぷ出ぶ数ぷ出ぶ年ぷ出ぶてきぷ出ぶと和ぷて我ぷ出ぶ
て出ぶ付ぷ出ぶ人ぷ出ぶ出ぶ人ぷ出ぶ行ぷ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ
切後ぷ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ
拾金ぷ出ぶて出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ
ぷ出ぶて年ぷ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ
ありぶ出ぶ民ぷ出ぶ付ぷ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ
ぷ出ぶの金ぷ出ぶの出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ
ぷ出ぶ年ぷ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ

十二

十ぷ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ
たぶき出ぶの出ぶと出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ
ぷて清ぷ出ぶの出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ
こぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ
民ぷ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ
出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ
つぷ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ
とぷ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ
出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ
ぷ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ
命ぷ出ぶの出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ
と出ぶて出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ出ぶ

仕りぽうしに出かけ毛ふ[illegible]
がくらいに近所にござらしまぬ
いへ民間持くるあ[illegible]
ふと付果てかりていまうどぞ
いまの私ひとりとはおもいて
ひとりごとかき仕合ぞ[illegible]
毒をと安まいりとせ[illegible]
かねと先ひとりかれ世[illegible]
自分の私ひとりぞ[illegible]
私のどは私よりも[illegible]
そうねたらに我いま[illegible]
のるに共りんと新[illegible]

血気の男共面[illegible]
男[illegible]廉[illegible]
くに我と面もわげられぬ仕合
歩[illegible]
行てくぶそとよて罪と謝やん
末の[illegible]
我に雑色とゆて
て[illegible]
の[illegible]
脊[illegible]
[illegible]
四[illegible]

今老の親と相ともなひて、その郷を相ひ、中国近の中国商人
仕合、俵屋久兵衛のもとに、あるとき、あるとき、あるとき、
名ぶまを、爰に上方と語り、拵者仕候、なれども、
数年仕候へ、下宿、
きゆうりは、ちと、
連のもの、
もとの中国、
こゝに、嫁ぐ、
赤ひげ、
嫁ぐ、
聞て、

母と出て、舞曲の事、
と、
出て、
はじめて、
うけられ、
方へ、
法華経、
墓、
とめ、
とすぐに、

はぐけて奥れい猫くるくるくでくも笑てこそ多いてひくりと面白ひそ
よう接穂くるくゆすのそれぞれ上の姫よゆすのい猫負るのうくさみ
と竈山赤るあるあるよいは墓あるあ蹴ねこの猫でどもと折姫てゆよ横
子どもに山麓と都せるる。結くひ家の口猫ふくらわるものと猫あ市
徐りて武蔵のかい花蔵と面白のそれとさい抜てら馬名の体をと
ひ一くるでけ面くにゆかくそそ名と絡やられるとおさ人の系のく
ぬくくにてくれもくく

其墳墓土產

三之巻

同塚

第一

立のある花れ色て猫りて猫りかを男
法りとするがい判荷ちくに第ぐ弟特
乃うど赤面猫ゆくて々の数塚表
井の中れ乾鞍屋のれ数深い巧

第二　産の所揚婆雇男の安い初産

産婆といふは、産婦を扶けて力を盡すべき者なるが、中古合力組といひし女の利益

一　主のある子孫を稼ぎ作りかせぐ男

男は誘ふあれば出でやすく、家を捨てあれば出でやすく、固よりあるべきものにあらず。古人の何よりづいなり。とく固よりあるべきものにあらず。古人の何よりづいなり。とく固よりあるべきものにあらず。古人の何よりづいなり。とく

[illegible]人ありけるまでこそ。命をかへ出入きよう。[illegible]
してせいるるこそ。[illegible]
[illegible]
[illegible]

うしてはくれじがみうつ妻女いぶ去ゆんごとなき殿さんのすいにまづく
せ一ちのぶとて見めのてらたびひるすそ糸ゆうびるほめたるる女房
めいと。内弁慶ないじてうん物うんぼさ歩て茂くみとつうりぎげさ
保せてつあふんあしどひすぐれしるト細のぜとさめぐてたゆとめて
ゑばたうんとうとゑほどゆ有ふまぐふ紅葉どの色にあるれさすぐ長袖
のるんんとそうるき毒物とちひゆせあひ。おいゆとちされるれいば伝
まぢうあく恨びずぐに悪ないもるに毒ちぐひ。太和まうけぶ。悪ちゆ妻
い内全ん今ゑ物物ることけたるくぶうけくちくいひのちうけま共多
くのるれ無るれば。悪よもせひよ乃どあるぬゆとちひ切て。婦妻に
せようそのみうにつうりけるえ才みくちいば和わうの兵男るれど。
ちのぶとちるふ恨びてまぬの中ひまうらぬば茂ゆ保ちてうんられて。
面ゆうて屋表ほうるもひうんて粉くほるるとゆど家中の

三倫扨民ちうといつる好ゑ悪ちのぶ容保よるぶ。ちい御にうろ
まどもるまある乱るれいるれ。わべさゆるもるくふの中に外ごれて表へ
いおこずつまあいみうう新糸るれい面糸の仕法第にうあくちく。
伊の内合せけると。安ゆて古糸るれい月にうけて話ゆを杉島し。
陸く合はよゆて。毎日内家の部人る外に茂く紛て伊のかほど
きちうてるき国つにて。内緒ようけでんぐうぐてうおふいば我
ちいとさてれのたれ公。戯言るれどもちひうおみうるうんて
とう。女房にも知ようと。内党ようていひゆせ面わればそなはゑこと
度ゆても内緒い仕るにようせてちくづひの考ようは上いそて
出ちその月い出ぐみうけ対待てうんけまい。扨い我ちひの色
知にあうれみうにんづうけと。肝ようてうんてもなはい度くも紛
ぐちひるうてるるぬ。横高美ゆより面ふさぐいうあもして

ぶんぢろう
死人さろう
女ぶう
ちろう
中りん
すてえ
すろう
これ
ぶんぢろう
ぶれさろう
ぶれさろう
ぶれさ

みちゝと失ひぬ。はゝ歎かなしみてゝ、ものゝ入れんとて、あまたの郷にて、今さいとおもひつゝ、はゝの袖に縋りて、いまきまうすべき事、我方にある可内といふ中ゝ八、はゝの事をみゝゝ方に、事とかさねてゆるるれば、死す略のゝ為にひそうふまひきゝ、ゝを強くそ上に、金子あるごとにて、公に屋と打出てゝ、のゝ、いとけなき子を、ゝ、ゝ、ゝ

(二)

八月八日にて杉田うつぎ。首尾の話向も延びてゐたりと
ての林さ行き、勅して度乃へつめる侍人紅白とも多く見えて情を
にて打考て四方山の咲とる中にて一しきりの方の井戸ばの乱人乃
論とりのおやぢ。三度に三幅四民乃長合也。乃へ稼ぎの推量

大抵いかりの方にもちろんこれらの方にもちろんそれらのいろを。
行つてもかの人が園乃事にて民乃よわのそきうと
ろうとしなく。度乃にて出合。民乃と話ばまのさは中はを
智乃ぬ。ぬ乃方の井戸ばまの乱人のもの度乃乃の推量大
くこちらのおうの場。不乃。無義いう中の心情をとる
伝員ゆへ。乃てしこ乃とあらし。考乃なまれ。ぬひわう乃そ。
去にてまぬ。ちにぬ。ひてるのいまのぬしぬ。自分伝員のもとか
らぬ。ぬ考乃ぬ。かうのにいぬ推量のおもひとにかゆ乃ら乱ぬ見。
しにて。ぬにぬ。ぬ乃ぬ。ぬ乃ぬ。ぬ乃ぬ。ぬ乃ぬ。ぬ乃ぬ。ぬ乃ぬ。ぬ乃ぬ。
万一ちらひ。ぬ。人よ。ぬ家とう。ぬ。乃。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
物者推量とそ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ふ歌とつひあてけとゝ浮世久美おくふづさ物つくれ泊いそ
ふつゝ業ぞ子ゞ祇ふくやゝ上べゝ我ゝ紙の中と対会やうと。
伊の人実体もうくみゝ行て手仕ゝ仏例ゝ拾合ゝ為行ゝ武義ゝ
生せ〜系産ゝ連八祇侍国ゝつあ人ゝ行ゝ行ゝ行ゝれゝ世ゝ行ゝ。
祇も〜ゝうゝど世ゝ人ゝ方ゝ方ゝ越業四ゝに入て世ゝ行ゝ
為人行ゝ伊ゝれゝ祇ゝて行ゝ伊の下にぬゝ世ゝど二人ゝて行ゝ尾
ゝく行ゝ手ゝそゝ祇ゝけゝゝゝ行ゝ行ゝ為ゝ行ゝ為ゝ行ゝ為ゝ
ゝゝ立ゝて世ゝて行ゝ人ゝ為ゝ我ゝ人ゝ伊ゝ世ゝ越ゝ行ゝと
祇ゝつゝれゝ伊ゝ為ゝ為ゝ人ゝれゝ為ゝゝ行ゝ行ゝ。世ゝ為ゝも
為ゝれ為四ゝ男ゝゝゝ行ゝ為ゝ妻ゝ行ゝ人ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ
ゝて人ゝゝひゝけゝて。ゝまで為ゝひゝ為ゝも為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ
為ゝゝど。為ゝ為ゝ為ゝ行ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ

名ゝゝと行ゝ〜行ゝのゝゝぬゝゝゝ場ゝとゝのゝれゝて今ゝゝゝゝゝゝゝゝ事。
ゝゝや己ゝの尋ゝて。行ゝまで影行すゝゝゝゝゝゝゝゝ

きんこや
わるきごんろ
きしめろ
ぜんぜんやすきうり
武ろやすけと
ーとろ
悪こんの伝ドや
ほひらすろ
とりすけき
ぜんろ
ぜんぜんとすろ
カーろうゲけーハを
おどろきさぐ
べくり
ろくまろ
そのごとけ
ぜんナをエテ
すせいて
ごんぞ
ーつけすさ

かくしてもりるうらに月きよやかさうに春の景つきそれを和尚
めづらしがりて感ぜしけるふしを茶屋ひいきの茶屋のうすぎ
時雨をいとうの茶屋の若い草子の坊ひとを信てあてはまるかうの縁
とうのてをさしとみていつくしみきぬうのうちぶつめてがい紙にはいるの
門なし俳諧にて名を付はやとうふ屋茶屋の男ふうれい茶婆い紙
名ゆとうれいぞ源とうにつきあいこせよ浦まさい初のうそいうす
拾びおろうを果報つきまきはうやといてゆめうて月のことをいか
して二人ふ夜も固さうにはれうぐとまもあるあ河岸ふれいぐづ抱き
そぐそらうに月ふるるうどつ仏いかうどのるいふる新つきふうい
つけてしまのうのふいり形ふうて今いあごうれとちんの浦ふにも浦の
ふうあいふうのるわうをさはまで寒とかうてかうしはるれ
可月ふ月ふ月ふうにわひて私の長私ふ夜ふけふやれ手寒月ふ

ふれつふふふ月ぱくの内義ふれぐぐぱふ長ふ縁と月ふくげ
寒ふんぱふ近あそぐふれ弟ふ内ふ月ぱの方ぐ内月ぐぐぱ月ふ
とふをふぱふるのうとふれも知ふふ月ぱふ月の月に月ふるぬいぐそ
やふのふれそぱ月ゆふ浦ふやるぐぐ抜ふ月ふ浦ふてあるうと
れぱふうれ月れ月れ命の河ふ月ぱ一ふ月月ふ入紙にてふれぱふて
月ぱ月ふふふのうふぱ嘆いふふれぬるふいふぱふの月れ月れす
ふれぐぱふのうれとふきふぱふ月ぱ月ぬれぬるれぱふ
ふぱぱふふの月ふうふ月ぬぱぐんふれ月ぐふれぱふ月ぬ
ふる紙ふふんぐふ方ふふ合力ふふていふ月ふるふれふの浦ふいふふ
ふれふぱのふふ月月ふ月ぬふて月れぱふ月ぬ月ぬ月ぬふ月ぬ
浦ふふふぱふ紙ふ月ぬふ月ぬふて月ぬふぐふと月ぬ
ふふふ

みてせ侍よせらて先さ多の人へぴそろふ海てあれと神〻神
へ入てこされまてこざるとぷ今まあ毎つてみーを出ぷ侍ても市
たそ多るく行けれませてぷ市家ぷてる新てーせぴ四家いおて
主毎の何氏なつぐ来ろうとまて出てあひさつい毎月といてれる
もあれぴぷ公の中にて人合兵しーぷもわーいおのそるの出てろぴろひ
所ぷつい来いぴてほそちるの中に兵れのの中才みてなるて。
れ髪ーそれろ雅紙のあるよ侍四とめぐる人合兵るれぴ家にある
来もけあとぐろるれぴぷあどーひされてどひ来る来ーつ毎月
なろぷ今もうくー出れて廊てれとずるとえて裏出ろると。
可ぷ人て侍よ海ろ毎兵如房ろ屋とまろてあるそ人侍ぷあぶ
れよいふてころよ出ると抱てぐざ海とぐあしいこるこのぷろとる
ぴいた兵ずのそれ初ぐてぷろ人ろいるのいて人ぐやぷのあるら裏れの。

もてけられて顔れの兵れぐろ毎れ出男ふいてぷいろいれ中毎ぷ
が形とあるぐがされれ情いだーますあろくつんぐ可四つあぐなぐ
れるとぷ中とあて。今ぐて毎れめあろぷ人今まぐろぐぐきんぐてろう
らのあるとぷのそたるとるい来とのぷメて侍よ立れ侍ぐよふふさ
ますぷてーい夏留ぐーいてろあぐ海入くれれぐぐきのぐいあらあ
まろれい来の学ぐて留の出とられてぷてぐ四てそろもいぷ可四い
せてるすなくて侍人合のるい百万遍ドに来る見れてずぐくーてぬね

真積玉土産

目録

第一　如意の珠

まことに天帝の帯よりおちて成人せるものなり

成人の業とかぎりなく益有り

きわめて勝妙の視聴の所有

巻之

牙二

褐下の裾長けれども中間が白状

妙の久米に通と先人可内が高倍
毋れ者とけり人て弱るこの歌出し考ふ
黒と南くこ年まりの歌の歌

一　紀の長谷部の人に命を助る武士

主人に仕つけぬ牙のぬけたるをかたくなる妻いづ
せきあぐるやいまだ見れ用ひけまでも。汚ぎ歌と拓くく。
屋用さんを百姓の高うわく。考りまと抱き乳とく
ちて言ちりがぬ牙に出ゆれ主る新つぬ人つを
ても。初人こそ今らあぐるし出仕くいとなりまとと。
古人の侍ちしも。涙のくに称まかりける。毎日屋くの侍中る人
やつまこまるぬ。ぬ主あていそちと内入いぬるでごろ内ぬと孫
出る。彼侍上へあぐぬ牙ぬ方ども。いれ水高の高れ。に食歌を
たりて必生の考るる。ぬ方いあるかて妻女とくまいかる
ぬ耳くうて。基て。ぬ田とりの出ちて上りてぬ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ちゃうどまつてゐたるこの中さとの人ども
はくそれいは那波の宿の行中四方の
いはむかひとなりけのひとりとなつてるものもいたりけりて拙者お相手仕
りたいなどいつてをりましたるに
いてそれ那波の男様よあなたる事もござるまいて
ろう男いあなたとは四方へ行かられてさうて終る一せ
のろおれおいろう男いとはけ浦ちいあるとはてあるどもそれ自
ぶんとおるのうちにかんがえて浦さろ四
仕ちんと那波ちいとんきとろいてばは浦さる事ちぬ浦の側へ
をきんいろうおいてらちどそれ那波ちもあなたんが浦さふ
あるとも那波のいすれるいろう男ちもあるんだりかいろう
まんがどうもはるの命い拙ちんは浦ぎが拙者ちゃ月とおりてそれ拙者

ひとあがるはのろ一命はけて拙者たちへ拙者でもをーんべきが行と拙者
へ拙ちんのうちいおれかさるとはいろいろ拙者は拙ちんは浦さ四方
浦さちさへ世のひとりをいろ拙ちんのあるれど八
ろ浦さ拙ます拙ぐそは拙ひるさんは拙てはさろ浦では浦ぶりて拙ますだ
拙が拙ちんて拙ちいかつて拙ちたつぐろ男つさんは上いの者ちは拙者て拙者。
ちるは胸まするろちなつひるちるとはて拙ちたろ立
ゆりは四方ろ名ちとおまんてござるちりばちさるいとつれてまるは。
四浦のいぐろいるとそんとするとは氏ちろ出てはろく半角とそ拙ちれ
拙ちはいろてるは四ろ浦ちんが拙ひはろ男ちいふと氏ちろどの
は四角者の拙はとちるぬ拙者の人はいるゆうか浦と浦ちるは。ろ男
せはくい男ち拙切とちろちる浦ろ拙ろ浦づいはは必拙出される拙ちぬと
いの拙ば拙者ち四方に拙ちはは拙ぬとる拙ちは拙ぬ拙ぬ拙ぬ拙ぬ。

つゝしみなれば縁をもとめ侍べらんと思ひ果て侍りしかども乃
師よりとのゝたびそし給ふ命をうけてかゝる国方といふるく爲を行ふ
らしなへ。ぬしはうてう爲にして。人まの和でもごぞねくいんべがんべかゝ
ゝそうあれてう。さるく侍るさ分るしべ彩ひてある。つゝしみしるゝ男が
妻同伴にはゝそを世話をしてせいぞ。宋竟出すの子も男だが悔子にひと
くはゝ人分命をうばげうそ和ゝ来ゆゝ。ゝけてのいひぶん。彩を
たつはゝみ彩べ人。ゝ為の人面しけ。ゝ。ゝ和ひていんん男ゆいそいるく。
世ゝ彩ゝはたゝ上ごもゝたゝそ私の雑義ゆゝべ。拙者切腹仕るくこで
ござるさべかゝ和ゝと。ぬくいはゝさして。氏ゝの彩をゝつゝゆゝね

(二) 猫いゝかゝ裾兵衛の法ゝ中間が白状

よゝと学ゝゝとゝゝ人。氏ゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。ゝゝ武ゝゝゝとゝゝ。ゝ義ゝゝ
かゝゝゝゝゝゝゝ人まゝ。中ゝゝゝゝゝゝ侍ゝゝの図

腹ゝゝゝゝゝゝゝ

こと仕事ものうしいと人来たれば枕をもたげてあゆみなされて女房にも
いつまで私はされ女まみてゆあいの宿しもかうけてゐざされて呂れ
ぐゆるの仕掛ゐいとして姿を忍ばせて清人へ新けといはらて
来ぞ居ゐく拙者めいも云ひまぬ戸ばさわいゆのゐじこと
でもこさつ面を新る迷惑をねうぐ新よせてるさら仕ら
るでござらふを所も拙者うるて笠居いてゐて呂れこれまで
呂ぬ面ぬびくしいはまそとりをるとゐるいてゐそと封
じて清人方へ新け金のみ拙者めあをう日ぞふちこと仕掛ぐちてゐれよ
打ちあゐまぎきのふわるねいぐを附いけ封だれをゆ仕面新のゐ面の
呂へ新て出くゐされと内こりを面るれいぐ今でも私とあるを新に為さる
ほと清人の伴のゐ面と廣のゐ面の内面新へ新てあゐうきます。仕しい怪か
ぐ長新ゐい元と吹てゐ花と求ゐらるこりのゐ元のゐるゐとりの沢い。

はねあの芸所ゐ人来ゐるびゐけゐひゐんてゐる。可内ゐ後ゐちがゐして。
女房ゐ仕ゐぐざゐるゐゐ仕ゐ新ゐて下されとゐ人民ゐつ振ゐ二ゆて
ゐるゐと新てゐ一ゆゐるゐぐゐのおゐてゐひゐれいぐ民ゐつゐくと胸の
中ゐ日新ゐる新振ゐいゐてぐゐもくいゐゐ仕ゐるゐいゐ面ぐきゐの足ゐ
ゐれて迷惑いゐれても呂のゐに花ぐゐれいぐんで出ゐる付ゐも
ゐぐゐく牙とゐみゐぐゐさゐれ新ゐる程ゐけてゐるけき
ぐゐ。外の家ゐのゐるゐゐれいぐゐゐそけゐて仕新ゐふいゆ人
ゐ新ゐ仕ゐで清人ゐ可内ゐ寺ゐ拙ゐ人の面新ゐおゐつく
ゐ。新ゐ自滅ゐ新ゐゐゐゐゐ寺ゐ配の工面
ゐ。芸ゐ可内と呼付郎仕ゐ人ゐの男ゐゐれいぐ状ゐて新
ゐて元御ゐ手仕ゐ拙ゐ新ゐ面ゐ後付の拙灯ゐつく
ゆけといひ後ゐる。畏ゐと可内拙ゐ新ゐて。接用云ゐて云ゐ。

そいろ弟子二人と出て来ぬ。この板の人家をたづねあてゝ我と名させんと
のゝめゞとゝわれをそ西路をひくこゝろ名をくるゝと安楽
にて来いつゝかよい和尚名さして住家ゝと分出てとゝをこの
あつまりとゝ三方同じく行わけ白状して居れ、ゆゝしく術さをして仕
舞てのけまゝ尼病の和で論ずるといふのゝて。稚ざめ白無一と出
よ問そのゝこし家。板本を方ゝ約四方にわゝて懺悔てゝけゝい。
我今れ日和の面からの毛付よりぞゝ。問恵のゆゝ人ゝ後記さをとゝる。
稚ざめよい白和ゝ悔ゝ稚ゝ二付。今日白を改め白状仕ゝ。
ゝ人民ゝ百ゝ来れ出来の付。ゝまゝ白を抑ゝ出ゝ抑ゝ
出にとゝもゝゝ人ゝさゝゝゝゝゝ中ゝ出の屋かゝゝゝゝゝゝ
ゝとゝきゝのゝてゝ抑ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
我ゝ白ゝ付ゝ白ゝゝ白ゝ白ゝ白

[illegible]せばせんまりて四方といひうびけまるびと。今カ今までは法
[illegible]し大頂おもしたる。ゆ[illegible]けつをもをれどずこくと法後。
大の拍子ゆめ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ

ぶくいよくひとりふ行ぎの内法ときめて合ときとも。新田の方にひそろ
なる茅屋あると。俄よりかくそこへ移れ住のもろことせれくろ。まち
杉永源心保教と企識田信もそこに指つどくべ信もそこ大軍と信さ
ぜ。色に出さるべき有ぜへ今れば。源心おそろさ。和れの場ふえとつど。
かの分紙とぜといつもそうぞ。信よい信井此等よりの意ら制の三郎
とつもの。杉永源心おもよりもせとぬくろ出るれば。そこそこ信よ
つくりもてあらら制ご郎内ゆくと信家。郎のみそう後ろよりひと
とへい金ちのもしあるど我とても此等の家ふれいぬるみそうがぬ
く後ろとめて。新さしまきゆくもよい信家の無也西寄う
らくりて信もそへしかとそんをきんとゆ半減田系の源ふ行て。
件のかの分と杉ふとつくりと久と黒須ふ信今れい信もそ市義拵
ろそこ家の家の列よ。ら制のうとくそ。ふ分百結と信ふの

城へつくり。杉永宮のつきそ。城ふのか勢とかの拵の系ごくと
塠内へ入れけり。彼名ぐもを家の郎郎ぐりに。城よ火とけ国を
あげて切出る。城の郎よりも内を合せて責入今れば内郎の新よ切
立あつんとすれけずして。源ふい後うきゆて焼死ぞう。鳴よ杉永
和新とかまくへ西行つくりくん郎ぞ。天乃の罪とうけてあさほ
く墨にくる。関中れ信人へ。義を責て酒と求め。杉永滅郎の
後ひとせしとやかるみぐれの中を。二郎中氏乃ふい出二人のくれあ
て。毋すの山内ふまるべりて。出づく宮に新とうしそ杉郎元
隈の後ふ。三木拵ぬ寺の郎中に。信也氏乃ふい信ている出郎の信へ。
義方の和ふうしべ。ばあよりみそりしが。新ふ二義とそるもうく。
郎ふを手高分にゆて。新仕へ。ゆくく氏ふると書ふの新ひあ海。
ふとへ入ゆて陸岳し氏乃ふとそを改ゆ出郎やう拵ふみそう

四方へ打ち散り、行出でて、はるかに出でもてゆくを、
しばらくは、打ち眺めて、涙をぞ流しける。
さてこの家の主人、我が子の、
いとおしみ、ひとりぞ、ながめける。
あるとき、ある人、来たりて、
いとおしの、我が子の、
いとおしの、我が子の、
いとおしの、我が子の

にいてゐるひのはをとりこれ同おなじく民たちと付て体系をなしたる
業のは秘義の力と下に行なうを尾張なるあるくみなどの住居
武義に生やしたるしるきあれ三人のうまれ生るを云て那波二
郎ひとり所屋かりてをひくにさるべれ高人と云て。業の嫌
下と毎月使ひなどう民たちが居宅に入申して用をすると入て。業害
をひくに出入のひとなめ。彩系のまえ人をにい。寝ろも人なく民たち
かうをろよ出仕ひ。第者のはせ人あまりろうれやく法めの神も
尺家に住親をいく民今を日ををしたるなり。
去れば内をそうれ同お歌の住をと人付なるにたるに日とのをす
るを。広く武略のたるざるあるう。西後宮と天はるを今宵
物語をとをいひあるべいづれも知ぬ。はるく肌を濡うをひう
思ひ。をはしたる人名と同じにして。そ遠の海豊。善の変り物なるを。

うをひて。夜ふるの初に表のうら海のうにしるんなく内、入みを関のアうら
ひうをのあるうを悔同ろあり。めを沢の歌、病世民たち出会をうる
変ふるをうけて国のいうを切をいい民たち始め第者。記合をひいにを拾て切
ひすびみる方余て拾ひをきうるを入れて戦ひかるはのうをて民たちうをてかくも
民学会動記いう。軍の拾ひをとする信人者をを出るとみたち出会民
戦ひかるを。尾くうたいと第者独る然関たちうる動記が府先をく切をい。
にたれの動記ひうひ出をとみたち拾て前と打民ひ切ひのて民たちうをひ三
ようをて。かうを手来会方人ひをと命に伝祈と行出死終て切結ひをを拾ま
叶ひ民たちうと天ひをを切すうを不をうを民たちをを人者をを。稀同と
ていをと同人者をを自をを性ひいをみを。出すを。民たちをうをあいを使ち
のをを拾ひるを歌打て人のを。拾て行て人のを。尊と住てうう

其磧盃土産

目録

第一　欲ゆへ餅を烟草入れ封じ文

五之巻

爪よ火燒て肉紙をかきさてた今宵の光
乙づまあるふ帰て智恵さやげる刀抜兵衛
巧みものよ百姓とゆつけられさ然る性

第二

[illegible]の屋[illegible]て一類[illegible]男

人は目[illegible]やすう[illegible]取[illegible]

[illegible]珊瑚と[illegible]

小所の[illegible]

一　欲ゆへ飯[illegible]困苦入の封じ文

福徳[illegible]る所人の家よ。世[illegible]事と[illegible]人の欲さとかま[illegible]

事[illegible]し。又[illegible]家[illegible]小者[illegible]

を[illegible]と[illegible]

[illegible]と。[illegible]欲で困[illegible]る金[illegible]の数[illegible]金[illegible]

[illegible]。結末[illegible]

あてど。金[illegible]

利を[illegible]

[illegible]きいめると。[illegible]

ぬぐ[illegible]人の欲[illegible]

の分[illegible]

公の狼ぐ人吟ずして紙を乃ずてひくゝとそゝしいゝ三途川のいもゝろ。
干鱈に樣そへてそれくのゝ[illegible]沼の[illegible]ゝ[illegible]剃でま
いて拵すゞきそゝ余ゝ[illegible]を四出て千年余りて百貫目あまり。
七月名の活たつよ塔ゝ欲人くて[illegible]の川あゝ大ゝの[illegible]ゝて。[illegible]
[illegible]の男。ふゝ[illegible]と情四して日和ても長ゝ[illegible]の面合[illegible]
[illegible]て小さきの[illegible]人の方とかけゞゝ行ても利ゝの[illegible]
[illegible]耳とたゞて眼とひゝ七[illegible]ぬ者の[illegible]より[illegible]
とゝ色で三[illegible]て[illegible]入さて[illegible]ゝ紀
のゝ[illegible]の欲きとゝ人どゝ日に[illegible]ゝ[illegible]ゝ
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
きどゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
とゝふゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

おゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
くゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝの芝居の[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
おゝ日の[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

袋りけ。さーかゝ巳の美濃とうづき。仕をもつ仕ぜ角ぢひ。地蔵のくるいと
ろの友こて行四ぱ。ちつぐ打ちる火縄の火とうる追駕よ。京の西立ちされ
海ちうそ。ないかるよいるすそいへぱ。紙家ちく男ちるみて。ちるまみすぐ。ごうぞ七つ
に若いとさいを絆みもちるに。ゆ。あさうかとうへぱ。如往拙ちうる紙へ
ちるまぱ。ちのいの青ちるに大坂いとうちうきのゆ。に目のゆ。たい三袋も
打ちに。ちるちぐごうる。おくとちぐふて。ぱ御ろも。鳥ゆ。て乃ゆ。わごうひ
ゆ。この店屋れ行。ぱもよ。ふうう海。さ。ぱ。ぱ。ぱ

やつま
うどん
そば切
屋
たぐんのろろ
たぐんのろろ
ひらいたぐと入
ぼれのふとこ
酒ふるひたぐと入
ろろ
ろろ
ろろ

戸ゐて。夢もあるにて夢さんにそこうけ。こ夢をこのんで。くや。五つ。こもを
つま。酒肴代拵て。みを。と出ゐるふぶつれ。夢さんの。寝ぐまつる。夢を。
いてひとろくとろぐろゆるぶ。えを。次ちろいトアゐて。をいうをこい
酒の酔の。抱して。夢をいちを。ゐる。夢。御よりを。ゐ。みめて。それろ。つぐと
ゐ。さぐろて。酒。の。ゐ。と。つれいよりきぐんろて。上を。の。酒。を。で。信。ゆろ
ゆるゆろこを。て。つれ。の。ろ。ゐ。ゐ。ゐ

刀屋伝兵

今世界や新発明の事抜
けるとこと世面をんてさいてごぎ人の仕合ご秋もつけるぬ所いてれ。
ふ元禄の巳秋云のるへかの仕合ごきるぞ。そこの発明の四百年と海のあら
わご鈴をかへ元そ秋西てに発明を立て。百ら今と百ぬ所付てそれ
よせ。ないごど自多まそ小屋市村へ行て武士とうと百人とる。に彩
い者るづはまこげる仕る刀屋の中ん横の麻もわるまのるそつけ。ん百るの武士
の浜人をんゆる男出そ。ふと百るそ百ちこい伝の人ごそこえい。本ぬ。ぬ。ぬ。

ちがいなくとぬきの色者てつらるべ[illegible]
あがらなりて京ゆり下[illegible]
ひ[illegible]れ[illegible]
[illegible]後の刀[illegible]
形[illegible]
[illegible]の刀に[illegible]
[illegible]
[illegible]

一度の事ゆへ成人のしるべ家一度まいりゆくよりかの同利の家より出人来りて。
みねとよく同利せし仁惣治より出りてたづねて。古鉄店ちりを日雇て買ゆかれ
ゆしいえ来ぬいて言うしてよりの和りしい雪の一家ふたりて
利をいろ仁事後と雪おさげて舞伝とる市郎くいて雪。人の家ごとなる
すのそまいに雪。雪ものとの耳もつとしの。我ものし醤太少世仁仕事や
きどもれの本法。拾ろとも法紙の上ろ。で高ち干店とうて匠
いちさ相口の猪と元で拾もそこ称れ。貝実の牛中馬中。知れ行よ。場
まづ仁はかと。言葉接てんてきぶの和でと問行はの和ものと行よ。今と歩か
らべく行拾ものてゆく仁和問家傷よ病人みて。治るあり。又まられ四仁家
の市四ものと。家ものと七れれの干実のれ口。大まものれりしごそ。れがを
岩ものと行ものしいべ性仁利のみものと合点て。ぶ人茶と合さるて月て干
店ものと。ものと行ものと自分の拾る一後仁性中より

りてこの話七人みの和り。涙一千店の富をみて。此程話を拾て。我まち
を一後と法れ仁事ものと合点さ。彼れ口をたて性ものと入て家傷へ
かけてゆけ。ものと行れいゆりの。ものりの。言葉ものれ。拾ていばくれかりしそこ
なりものりれ。雪ものて。伝て家。言葉りの。人合法れ言葉の方へ行。法牛
をとり伝の和口とり合てゆ。自法話とかりまものと言葉りて話石後
を干店れ。ものれ。ものれ。ものれの伝ものと。合伝ものたのかべ。
元言葉の加。和口。後て。今て伝ものと。言葉の。一方ものと行れ
なものれ。縁さをとる。上てこべ。利の三言葉ものれ。ものれ。ものれ。
十五人ものて。ものれ。ものれ。ものれ。ものれ。ものれ。ものれ。ものれ。
ものれ。いまものと言葉ものでいなり。後れを後と男ものとけんで。行て
るものと言葉ものとけるものと言葉ものの。一貝実の安きものあ
らべりの。ものれ。ものれ。ものれ。ものれ。ものれ。ものれ。ものれ。ものれ。

あいにの
つかをうる
市ゑ

[illegible]とんで西の方へ行てゐるのをぐつぐつとこちらの侍人[illegible]
でゐるのを[illegible]ハ百[illegible]みぢかくなりて[illegible]
[illegible]して後ろを[illegible]
[illegible]と西へ行て[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]ひけるこゝろのあの糊殊のうへでござるのいとやめて[illegible]
[illegible]ぞんと[illegible]及びまを[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]

まりてぞたはのこゝろにしたがへるかの自作でるいろもせよ。ぶ子手
やハなものうるびとしてどもろも自文れ経典とれそのゝを消ぶさぶ
町出作とつてくるかどぞ。乞此所ひをもうれとまるのそこ。ぶ子面は
て求めて侵犯の法　　ぶ子はびぬ。くゝゆゞかぶ京れのるやおき
三途川のおぶ姫の　　衆人の京れ衣を剥ぎてぶけてのゝをて
経典ともゝせうて南の侵　　仕立てぶ子ぶ子ぶ子覚ぶのるやや
のんのゝてゝきぶ尽てゝうゝぶ子のい世の中れ人のんの祈みでみゝゝ

元文三年午正月本出

書林　大坂　作者其磧
同　　安井嘉兵衛
　　毛利田庄太郎